

ねりまの文化財

登録文化財 35件に！

区では、練馬区文化財保護審議会の答申(昨年12月16日)を受け、3月1日付教育委員会告示により、20件を新たに文化財として登録しました。

昭和62年度までのものと合わせて、合計35件となりました。

今回登録された文化財

有形文化財

鐘楼門 中村一―一五―一 南蔵院境内

氷川神社の旧拝殿 豊玉南二―一五―五

氷川神社境内

榎本家長屋門 南田中四―一三―一二

氷川神社の水盤 石神井台一―一八―

二四 氷川神社境内

角柱型水盤 氷川台四―四七―三

氷川神社境内

閻魔・十王像と檀拵 大泉町六―二四

―二五 教学院境内

氷川神社の狛犬 氷川台四―四七―三

町田家文書 東大泉七―二五―二二

町田和雄宅

伊賀衆奉納の水盤・鳥居 大泉町五―

一五―五 氷川神社境内

有形民俗文化財

大八車 石神井台一―一六―三一

郷土資料室

関のかんかん地蔵 関町東一―一八地先

無形民俗文化財

探湯の儀 中村三―一八―二 御嶽神社

保持者 神田定男

史跡

東高野山奥之院 高野台三―一〇―三

長命寺境内

小野蘭山墓 練馬四―二七 迎接院墓地

練馬区教育委員会
社会教育課
(文化財保護係)
☎993-1111 内線2766
〒176練馬区豊玉北6-12

稲荷山図書館開館一周年記念

稲荷山遺跡と白子川沿いの自然と文化財をたずねて

4月23日(日)

4月30日(日)

(月曜日は休館です)

会場は、同館会議室

〈内容〉

稲荷山遺跡、大泉中里遺跡出土土器・石器・写真

図書館周辺の文化財(中

里富士塚・土支田八幡・憩いの森・カタクリ)の紹介

遺跡・文化財図書コーナー

〈問い合わせ〉

稲荷山図書館 大泉町一

三―一八 ☎921―四六四一

池永道雲墓 練馬四―二七 受用院墓地

尾崎遺跡 春日町五―一二―一 春日小内

池淵遺跡 石神井町五―一二―二〇

栗原遺跡の竪穴住居跡 氷川台一―七

都立城北中央公園内

千川上水跡 関町南二―四丁目他

【次頁に関連記事を掲載】

天然記念物

練馬白山神社の大ケヤキ 練馬四―二―三



平成元年3月1日付けで、区内に残る千川上水跡が区の文化財(史跡)に登録されました。

千川上水は江戸小石川御殿など將軍「お成り」屋敷をはじめ、周辺の飲料水供給を目的として、元禄9年(1696)に開削された人工河川でした。現在の保谷市と武蔵野市境いの玉川上水から分水し、巢鴨まで素堀で、その先は木樋を地中に、

千川上水について

文化財保護推進員 北沢 邦彦

水田灌漑用水として重要な役割を果たすことになりました。

上水本流には各所に分水口が設けられ、石神井川、妙正寺川、善福寺川などの流域の水田に送り込まれていました。本区では石神井川と中新井川(現在暗渠)沿いの水田に向けて、文献上7か所(北沢の実地調査では9か所)の水路が設けられていました。これらの分水を利用する村々では、上水の管理者だった千川家(工事請負者)に使用料を支払う定めでした。

埋めて上野・浅草方面に引いたのです。

この上水が宝永4年(1707)に流域20か村の水田灌漑に利用できるようになり、本区域の関、上石神井、下石神井、下練馬、中、中新井の各村々にも大いに役立つ川となりました。その後正徳4年(1714)に小石川御殿が廃されてからは、上水も巢鴨で打ち切られ(一時復活するが享保7年(1722)再度打ち切り)、むしろ、

千川上水は、明治13年に岩崎弥太郎が発起人となり、千川水道会社を設立した時から、再び東京への飲料水供給の役割が復活し、明治40年の近代水道普及時まで続きますが、この間も練馬地域ではもっぱら水田灌漑に利用されていました。



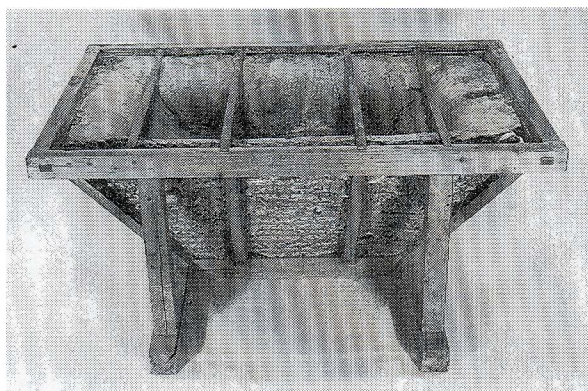
文化財防火デー



昭和24年1月26日、法隆寺金堂壁画が焼損しました。これをいましめとして、全国で文化財防火運動を展開し、国民一般の文化財愛護思想の高揚をはかっています。今年で第35回目となりました。練馬区では、練馬・石神井両消防署を中心に実施しています。(写真は、春日町四丁目の愛染院。婦人消防官の説明で多勢の園児が見学しています。)

1/26

郷土資料室収蔵品 シリーズ



ほいろ 焙炉 (縦85cm・横132cm・高さ62cm)

製茶の道具。土で作った炉と底に紙を厚く張った「焙りわく」(助炭)からできています。

茶の葉を蒸籠せいろで蒸し、さましてから炭火を入れた炉の上に置いた焙りわくにのせます。素手で葉をよくもみ、筥はちに取り、手さばきをした後再び炉にかけてもみ、製茶しました。この作業は、品質の良否を決める大切な工程とされてきました。

練馬では、明治政府の桑茶政策をうけ、茶が大泉・石神井地区を中心に、明治20年頃から大正中頃まで盛んに栽培されました。その後蔬菜そさいに転換され、昭和20年には殆んど見られなくなりました。

この上水も、昭和に入ると現在の豊島区、板橋区域では都市化の影響を受け、近の水田も無くなったことから暗渠化が進み、戦後になって練馬区内でも暗渠を望む声が高まりました。子供の水死、水害等がそのひとつの理由となったのです。こうして昭和27年以後、区内の大半は暗渠になりました。

千川上水に清流復活

今は都市の川を見直し、さらに水流復活の気運の中で、本年3月29日をもって、青梅街道までの開渠部分に水が通りました。正に記念すべき事と言えるでしょう。

石神井台七丁目の閻魔堂えんまどうでは、毎年3月15日に、百萬遍念仏ひゃくまんべんねんぶつの仏事が行われています。当日は、地元の石神井台七・八丁目、関町北四・五丁目の閻魔堂念仏講の人達が本堂に集まり、静座して大念珠を操り、「南無阿弥陀仏」と阿仏六字をくりかえし唱え、鉦かねを連打します。

江戸時代から続いているという、疫病えびやみ除け祈願の庶民信仰です。念仏が終るとお茶や酒を飲みながら念仏講の運営や行事について話し合いをし、併せて講中の親睦や連帯感を深めます。この講中は、櫻井家(曹洞宗道場寺檀徒だんた)と田中家(真

百萬遍念仏

(閻魔堂念仏講のみなさん)

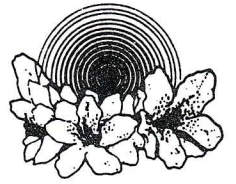


言宗三寶寺檀徒)の集まりで、宗派を越えた習俗として、これからも受けつがれて行くことと思います。

なお、以前は講中の家々を廻り念仏を唱え、楚字を一字書いたフセ木ふせぎを二枚づつ渡して歩いたとのことでした。この木札は、戸口やヒイラギの枝に吊り下げ、各々の家で無病息災を祈ったと聞きました。

時の流れとともに、伝統行事が次第に消えて行く中で、百萬遍は今後も3月15日に行われます。無形民俗文化財として、大切にしたいと思えます。

文化財保護推進員 井口 敏



春の史跡散歩

5月21日(日) 練馬コース

区内の史跡・文化財などを、広く知っていただくために、春と秋に「史跡散歩」をおこなっています。

今年度は、5月21日に実施する他に平日や、親子でたのしめる文化財ラリーなどの企画を予定しています。ご期待下さい。

5月21日(日) 予定の「春の史跡散歩」練馬コースは、朝9時に西武線豊島園駅

文化財日誌

(昭和63年12月21日～平成元年3月31日)

＜1月＞

- 5日～7日 葛原遺跡A地点本調査(関町北三丁目、縄文中期竪穴住居址二軒、中期中葉・中期後半土器多数)
- 13日 小竹東遺跡調査団 結団式(小竹町二丁目・都営住宅)

26日 文化財防火デー【関連記事2頁】

＜2月＞

4日 小竹東遺跡発掘調査終了(縄文早

前に集合。2人の講師の案内で次の文化財を見学する予定です。向山庭園↓尾崎

遺跡↓春日神社↓十一か寺↓白山神社↓

阿弥陀寺↓練馬駅(解散は、午後0時30分)

講師 桑島新一氏

石井 薫氏

＜詳しくは区報などをご覧下さい。＞

期前半土器等約千500点、ピット5基
(検出)

13日 旭丘中学校 郷土史研究クラブ、

文化財仮設収蔵庫(整理調査)見学

15日 埋蔵文化財立会(関町北三丁目)

＜3月＞

2日 埋蔵文化財立会(大泉二丁目、向

山三丁目)

8日 第四回文化財保護推進員会

15日 百万遍念仏講取材【関連記事3頁】

18日～21日 扇山遺跡の発掘展(石神井

台地域集会所・見学者約250名)

出版情報

◎練馬の民俗Ⅰ 復刻 2月発売 150円

◎高稲荷遺跡 旧石器時代の石器ブロッ

ク(集中)と縄文早期の炉穴。5月発

売。定価千900円

◎稲荷山遺跡 縄文早期炉穴群。5月発

売。定価800円

◎大泉中里遺跡 縄文早期土坑、前期竪

穴住居址。非売品

◎扇山遺跡第四次調査 旧石器時代の石

器ブロック(集中)、礫群、縄文中期

竪穴住居址。非売品・練馬区遺跡調査

会刊行。

◎堀北遺跡 縄文中期竪穴住居址。非売

品・練馬区遺跡調査会刊行

※文化財関係の刊行物で、品切れ・非売

品などは、お近くの図書館・情報公開室

でご覧になれます。コピーもできます。

ねりまの文化財は、毎年4・7・10・1月の四回発行します。

区の文化財保護行政のPR紙であるばかりでなく、区民の皆さんの文化財関連サークル等のお役に立ちたいと考えています。原稿は、たて18文字とし、切は発行前月の20日までとします。